

# まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

○**現状認識** 2008年に始まった人口減少は、今後加速度的に進む。

人口減少による消費・経済力の低下は、日本の経済社会に対して大きな重荷となる。

○**基本方針** 「人口減少克服」と「地方創生」を合せて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指す。ビジョン・総合戦略を策定する。

国・・・長期ビジョン:2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望

総合戦略 :2015～2019年度(5か年)の政策目標・施策

地方・・・地方人口ビジョン:各自治体の人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望

地方版総合戦略 :各自治体の2015～2019年度(5か年)の政策目標・施策

○**政策の推進(基本目標)**

- 1.地方における安定した雇用を創出する
- 2.地方への新しいひとの流れをつくる
- 3.若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4.時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

○**地方議会の対応**・・・策定や検証に積極的に関与

○**国の現状**

・総人口の推移と将来推計

総人口は、戦後の高度成長期より増加を続け、1967年には初めて1億人を超え、2008年に約1億2800万人とピークを迎えたが、その後、減少傾向になり、2013年に約1億2700万人に減少。将来は、2060年に約1億190万人、2110年には約9020万人になると予測。

○**当別町の現状**

・総人口の推移と将来推計

総人口は、1965年から減少傾向にあったが、1990年から太美地区の開発により2000年には2万人を超えた。その後、宅地開発の収束により、2010年は約1万9千人に減少。

将来は、2020年には約1万6千人、2040年には約1万1千人になると予測。

・年齢3区別総人口の推移と将来推計

太美地区の人口流入期に年少人口(0-14歳)・生産年齢人口(15-64歳)は増加したが、2000年から減少傾向。老年人口(65歳以上)は一貫して増加しており、将来は、2035年から減少に転じると予測。生産年齢人口の減少が速く、2035年には老年人口が生産年齢人口を上回ると予測。

・出生に関する分析

1992年から出生数は増加に転じたが、合計特殊出生率(15-49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの)は北海道と同程度の水準で低下。2005年から全国と北海道の合計特殊出生率は増加に転じたが、当別町は一貫して低下。2008年には1.01と、全国(1.43)と北海道(1.28)と下回っている。

○**当別町人口ビジョン(案)** (人口動向分析・将来人口の推計・人口変化の影響分析・人口将来展望)

○**当別町の総合戦略を構成する4つの視点(案)** 別紙



当別町の総合戦略を構成する4つの視点(案)【個別テーマ】

産業力の強化

～儲ける町・働ける町を目指して～

【基本目標】

- 「農業10年ビジョン」に基づき、農業生産額を大幅に増加  
基幹産業である農業の生産物を活用した2次(1.5次)産業化および6次産業化を推進  
儲かる農業を目指して、農業のブランド化、販路拡大、販売拠点整備を推進  
地中熱等再生可能エネルギーを有効活用した農業生産を推進
- 雇用増加を目指して、企業誘致・集積を推進し、道央圏の成長力を取り込む形で産業力を強化  
特に食品加工業中心の企業誘致による国道337号当別バイパス付近の物流基地化を推進
- 起業、2次創業、商業施設誘致により、経済の域内循環に向けた仕組みを構築

【重点推進プロジェクト】

- ・「農業10年ビジョン」推進プロジェクト
- ・当別町「道の駅」プロジェクト
- ・国道337号の拡幅にあわせた企業誘致プロジェクト
- ・「経済域内循環」商業施設誘致・起業プロジェクト
- ・土地利用再構築プロジェクト(企業誘致・集積)



当別町の総合戦略を構成する4つの視点(案)【個別テーマ】

エネルギー自立都市の形成

～エネルギー供給基地を目指して～

【基本目標】

- 再生可能エネルギーの活用を推進し、エネルギーの域内循環、雇用創出を目指す  
太陽光発電の公共施設への導入、町有地を利用した発電事業者の誘致を推進  
木質バイオマスを活用した地域循環モデルの推進  
生ゴミや農業残渣、下水汚泥などの廃棄物バイオマスを活用した地域循環モデルの推進  
地中熱の有効活用

【重点推進プロジェクト】

- ・太陽光発電を活用した地域循環モデル推進プロジェクト
- ・木質バイオマスを活用した地域循環モデル推進プロジェクト
- ・廃棄物バイオマスを活用した地域循環モデル推進プロジェクト
- ・地中熱有効活用プロジェクト
- ・雪氷熱エネルギー利活用検討プロジェクト
- ・水素等次世代エネルギー活用検討プロジェクト



## 当別町の総合戦略を構成する4つの視点（案）【個別テーマ】

**町に人を呼び込む「定住・交流」の促進**  
～人を呼び込める住みよい町づくりを目指して～

**【基本目標】**

- ◎人を呼び込み定住につなげるための雇用創出を推進
- ◎町に人を呼び込むために、日本版DMO（※1）の構築を推進し、観光・イベントの再構築を図る
- ◎これまでも先進的に推進してきた移住促進事業の更なる充実を目指し、町内生活を体感できる「おためし暮らし事業」を拡充
- ◎日本版CCRC（※2）構想の町内モデルの研究を推進

**【重点推進プロジェクト】**

- ・雇用創出、定住促進プロジェクト
- ・日本版DMO（※1）形成プロジェクト
- ・大規模イベント構築プロジェクト
- ・「おためし暮らし」グレードアップ推進プロジェクト
- ・テレワーク等 事業所移転推進プロジェクト
- ・日本版CCRC（※2）研究プロジェクト

（※1）日本版DMO（Destination Marketing/Management Organization）  
地域全体の観光マネジメントを統括する組織のこと

（※2）日本版CCRC（Continuing Care Retirement Community）  
高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体のこと



## 当別町の総合戦略を構成する4つの視点（案）【個別テーマ】

**未来を担う子どもの育成と町民が幸せに暮らせる社会の形成**  
～子どもから高齢者までの住みよい町を目指して～

**【基本目標】**

- ◎小中一貫教育を推進し、学力向上、地域の特色を活かした教科の導入等を図り、学校での指導の効果を高める
- ◎子育て支援サービスの充実および子育て関連施設の整備を推進
- ◎利便性の高い地域の居住環境整備を目指し、JR駅周辺開発を推進
- ◎公共交通の整備、除排雪対策の充実、防災体制の強化を図る
- ◎北海道医療大学という知と医療福祉の拠点と連携した福祉社会の形成を推進

**【重点推進プロジェクト】**

- ・小中一貫教育導入推進プロジェクト
- ・子育て世帯応援プロジェクト
- ・活気ある公園創出プロジェクト
- ・土地利用再構築プロジェクト（JR駅周辺開発）
- ・公共交通充実発展プロジェクト（JR複線化・快速化、コミュニティバス・デマンド交通の充実）
- ・雪に強いまちづくりプロジェクト
- ・災害に強いまちづくりプロジェクト
- ・地域福祉推進プロジェクト
- ・日本版CCRC研究プロジェクト（再掲）